

リモートセンシング衛星と ユーザーニーズについて

検討の視点

リモセン衛星に関する海外の動向巡る課題

民間の事業者の動向

・リモセン衛星

- 政府のアンカーテナント（主に安全保障ユーザー）による下支え
- コンステレーションの台頭
- M&A、企業間連携の加速

・プラットフォーム

- 大型プラットフォーマーによりほぼ寡占状態
- 扱うデータの多様化によりプラットフォームの重要性は増す一方

各国のリモセン衛星の動向

- 安全保障、デュアルユース、公共インフラ（オープン＆フリー）、民間主体というスタイルの組み合わせ
- アンカーテナント型から政府直轄衛星に戻った事例

リモセンの普及の方向

ご議論いただきたい論点

今後の民生利用部会においては、リモートセンシング衛星に関しては、主に以下の内容についてご議論いただきたい。

✓ 将来のリモートセンシング衛星のあり方について

- 官民において現在及び将来見込まれるニーズ等を踏まえ、どのようなミッションとすべきか
- 我が国の技術シーズを活かし、どのようなミッションを実現しうるか
- 国際間協調について考慮すべき点があるか
- 民間企業のリモセン衛星が登場しつつある中、将来の衛星の開発・利用に国は如何に関わるべきか

✓ 国のリモートセンシング衛星のデータの提供と利用拡大の方策について

- ユーザーニーズの観点からデータ提供について国の役割はどうあるべきか
- データの継続性の観点をどのように考えるか
- 更なるデータの利用拡大に向けた方策は何か